

わ

が

街

わ

が

故

郷

中西金属工業株式会社と 三重県名張市

三重県名張市は北緯34度37分27秒、東経136度6分4秒、紀伊半島の中央部の東よりで、三重県内においては中央より西端に位置し奈良県と隣接している。

四方を山に囲まれた盆地であり、総面積が129.76km²で、名張をはじめとして蔵持・美旗・赤目など11地区の集合体であり、格好良く言えば「自然の豊かなベッドタウン」ということになると思うが、一方では「本当の自然と共生する街」ということもできる。

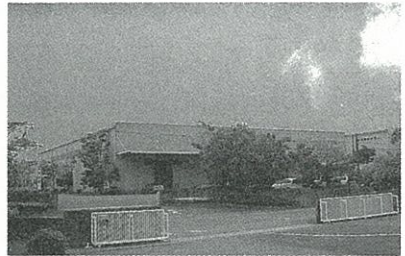
中西金属工業(株) 名張工場のあらまし

当工場は名張市の八幡工業団地内にあり、敷地面積68,802m²を有しており、団地内でも比較的大型の工場である。

従業員数は330名で、社員がおよそ40%、パート・アルバイトが30%、請負社員が30%の比率となっている。八幡工業団地は昭和58年に誕生した敷地総面積851,000m²の工業団地である。現在15社が操業中である。

当工場は昭和59年に竣工した保持器工場と、昭和62年に竣工した樹脂工場との2部門が、それぞれ道路で隔てられた2カ所の敷地に別個の建屋で操業を行っている。中西金属工業には国内3カ所に工場があるが、その中でも名張工場は金属製の円錐ころ軸受およびラジアル玉軸受

用のリテーナーと樹脂リテーナーを主として生産している。



保持器工場

また、金属リテーナーの工場としては大阪府寝屋川市にも工場があるが、名張では標準型番で量産タイプの製造を行っており、寝屋川工場の大型および少量品と守備範囲を分担している。当工場生産するベアリング保持器はおよそ7品種で、そのバリエーションは約150種類である。産業界全般で広く用いられている汎用性の高いベアリングに使用される保持器であるだけに、その精度や納期に関しては極めて高い生産管理が求められており、各プロセスにおける無作為抽出による中間検査、熟練工による出荷前の全品目視検査など高品質の維持に努めている。

さらに樹脂リテーナー工場に関しては、樹脂リテーナーに要求される品質・精度や強度を保証するうえで、樹脂の成形条件、金型内充填バランス、さらには成形温度による寸法変化、ひ

ずみの発生など、金属リテーナーに比して研究開発課題が極めて多く、そのために技術部門、金型制作部門を同工場に配置し、現場とリアルタイムの情報交換や試験を行いながら製品生産を行っている。



樹脂工場

ところで三重県名張市とはどんな街かを、ここでもう少し詳しく紹介していきたい。

名張市概略

冒頭にも述べたように、名張市は三重県に属し、地域としては中部圏に属している。しかし名張市は関西経済圏との結びつきが深く、ベッドタウン化している桔梗が丘・つつじヶ丘・すずらん台などに居住する人の多くは、大阪・奈良方面企業に勤務している。主要幹線である近畿日本鉄道大阪線でも大阪まで約1時間、名古屋まで約1時間30分であり、このわずかな差が関西圏とのつながりを強化しているようだ。そのためか実際に地元居住者に聞いてみても、大型商品の購入などには奈良・大阪方面の百貨店などに出向く人が多いようで、地元小売業への貢献は比較的低いようだ。

ところで人口はおよそ8万3千人で、ここ数年微増状態である。年齢的には就業可能年齢層が最も多いが、高年齢者の微増と低年齢者の微減が将来に対する不安材料でもある。

著名な大企業やナショナルブランドを保有する産業も地元には見あたらないため、地元とし

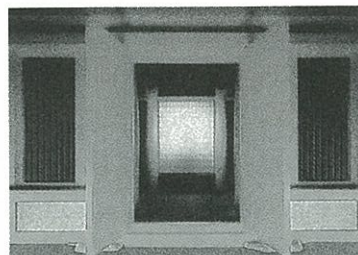
ては工業団地を開発し、工場誘致などに積極的で、名張市内には当工場のある八幡工業団地のほかに蔵持工業団地、三ツ池工業団地などがすでに稼働しており、重要な税収入の基盤となっている。さらに平成16年6月に企業立地促進特区の認定を受けたため、賃貸借も可能となった滝之原工業団地も企業誘致中である。

名所旧跡

名張は、関西方面からのお伊勢詣りの旅人や商人が行き交った旧初瀬街道筋にあたる古い町だが、日本史の表舞台に登場することはさほどなかった。とはいえ、中央との結びつきを示す旧跡もいくつか存在する。その中でも代表的なものを紹介しよう。

夏見廃寺

夏見廃寺は名張川右岸の夏見男山南斜面にある古代寺院跡で、出土遺物から7世紀の末から8世紀の前半に建立されたと推定される。名張地区の古代寺院に関する記述としては、醍醐寺本薬師寺縁起に「大来皇女、最初斎宮なり、神亀2年(725)を以て浄(御)原天皇の御ために昌福寺を建立し賜う。夏身と字す。もと伊賀国名張郡に在り。」と記載された個所があり、その昌福寺が夏見廃寺と考えられている。現地では発掘された金堂の基壇に残る礎石配置をもとに、特異な柱配置を中心にした金堂の一部を実物大に復元し、また夏見廃寺展示館を建設し、出土品展示などを行っている。



金堂（一部復元）

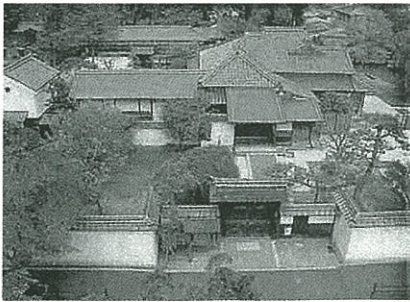


礎石

名張藤堂家邸跡

津藩藤堂家の一門で寛永13年(1636)から明治維新まで11代にわたり、名張に居を構えた藤堂宮内家の屋敷跡。現在の屋敷は、宝永7年(1710)の名張大火で焼失した後に再建された殿館の一部で、「中奥」「祝間」「圍」など私的な生活を送る建物である。

この屋敷とともに、「豊臣秀吉朱印状」「鉄唐冠形兜・一の谷形兜」「朱具足」「備前無銘刀」「藤堂高吉公一代記」「羽柴秀吉・丹羽長秀の書筒」などの文化財が、平成3年に名張藤堂家から市に寄贈されており、平成4年に保存修理事業が完了した屋敷とともに一般公開されている。



名張藤堂家邸跡

文化人

江戸川乱歩

江戸川乱歩は、日本の近代小説の分野でも奇異文学・幻想・探偵小説などの草分け的存在で、アメリカ人作家エドガー・アランポーをもじったペンネームで活躍したのは有名な話だが、乱

歩が名張出身と知っている人は案外少ない。

江戸川乱歩は明治27年(1894)、三重県名張市に生まれた。本名・平井太郎。大正12年(1923)、「二銭銅貨」でデビュー。明智小五郎の活躍する「D坂の殺人事件」「心理試験」や、「人間椅子」ほかの短編で探偵小説界のトップに。『パノラマ島綺譚』『一寸法師』と長編を発表後に休筆するが、昭和3年(1928)に「陰獣」で復活、『孤島の鬼』『蜘蛛男』『黒蜥蜴』などの長編が好評を博す。また明智小五郎と怪人二十面相が登場する少年探偵団シリーズは、戦前戦後の青少年に多大な影響を与え、ラジオ番組やマンガ、テレビなどでもたびたびシリーズ化されている。ただし名張に生家は残っておらず、跡地には記念碑が建立されている。また記念館もないが(江戸川乱歩邸と蔵書などはすべて立教大学所有となり、定期的に公開されている)、名張市立図書館には関係者から寄贈された蔵書や私物などが展示されているコーナーが設けられている。



名張図書館 乱歩コーナー

観阿弥

能の観阿弥は妻の故郷である名張市小波田で猿楽座(観世座)を建て、我が国芸能の原点である能を今日日本文化を代表する芸能として定着させた功績者である。今日受け継がれている能の観世流も、観阿弥とその子の世阿弥を起源とする。

観阿弥の猿楽座設立を記念して、今日小波田

地区には能楽堂が建設され、毎年11月には愛好家による能や子供狂言などが演じられている。

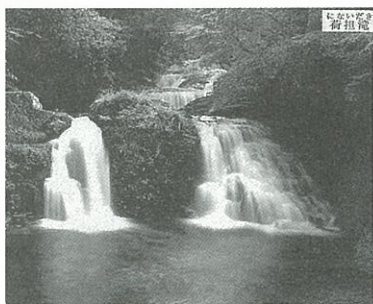


能舞台（観阿弥ふるさと公園）

観 光

赤目四十八滝

赤目四十八滝には毎年多くの観光客が訪れる。清涼な流れは、天然記念物の別名半割（はんぎき）と呼ばれる大サンショウウオの生息地としても有名である。京阪神地区の小中学校での遠足でもたびたび訪れる場所だけに、知名度の高い景勝地である。滝巡りについては1時間程度の初心者コースから、上級者向け3時間半の全滝鑑賞まで、脚力や所要時間によっても楽しめるピクニックコースが設定されている。



赤目四十八滝

香落溪（かおちだに）

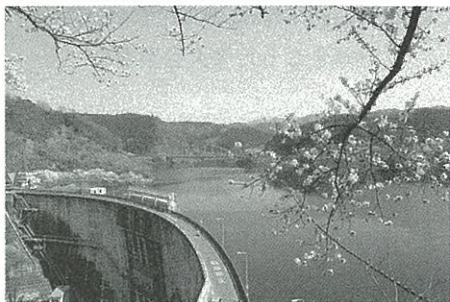
青蓮寺ダムの上流には柱状節理の美しい香落溪があり、夏場はピクニックや河畔でのキャンプや水遊びで賑わう。香落溪を越えて進むと奈良県の曽爾高原へと続く。



香落溪

青蓮寺ダムは、1970年に名張川支川青蓮寺川に建設された多目的ダム。貯水量は2720万立方メートルで、大阪ドームの23杯分に当たる。

ダムによって生まれた青蓮寺湖は、周りを山々に囲まれ、湖面には四季を通じて美しい風景が映し出されている。湖畔周辺には公園やテニスコートなどが整備されている。また、近くの青蓮寺湖観光村ではぶどう狩り、いちご狩りが楽しめる。



青蓮寺ダム

最後に

実際に書き出してみると、名張もなかなかの土地であると再認識させられた。

風光明媚、自然がいっぱい。中部経済圏と関西経済圏の中間地帯である名張は、暮らしにも仕事にも好立地と言えるかもしれない。